

いなべの農業 担い手さん



種村さん

今回は認定農業者として、水田経営とともに肉牛の肥育に励んでいる若手のお二人を紹介します。

(有)種村牧場 (藤原町本郷)
種村 徳治さん
今井 慎太郎さん



今井さん

経営内容を教えてください

今年の水田関係で、稲作を9.5ha・小麦12ha・大麦5ha、麦あとの大豆を35ha、野菜のハウスを2棟。別に牛舎で肉牛を80頭飼っています。水稻はコシヒカリをはじめ、あきたこまち・ミルキークイーン・ヒノヒカリやもち米、酒米の五百万石など、色々な種類を作っていて、機械も大小のトラクター5台、6条刈コンバイン1台、汎用コンバイン大小2台、5条植えの田植機3台を使って作業しています。作業は、種村の両親とともにやっていますが、種村が牛舎を、今井が野菜関係をメインに、それぞれが分担し助け合って進めています。

農業をどのように考えていますか？

牛を飼い、そのたい肥を田へ、育った稲わらを牛舎へ入れるといった「循環型(サイクル)農業」をしています。これは、減農薬・減化学肥料農業を行う上でとても有効なことだと考えています。また、稲作農家とタイアップすることで、転作田での麦の収穫から翌年の水稻の作付けまでの間、田が遊んでしまうので、大豆をまいて田の有効利用をしています。



子どもたちの勤労体験を受け入れていると聞きましたが

未来を担う子どもたちに、農業を体験してもらうことで、何かを感じ受け取ってもらえたらと思い、毎年受け入れています。いい子たちばかりで、貴重な体験をしてもらっていると思います。

今後はどのようにしていきたいですか？

「安定した農業経営」を考えていますが、だんだん米が安価になってきているため、水稻以外で、野菜や大豆栽培などに力を入れていきたいと思っています。自分の作った野菜が店頭で売られ、評価されたときに一番のやりがいを感じます。これからも、いろいろ工夫して良いものを作っていきたいと思っています。



大型のトラクターで大豆まき



☎藤原庁舎 農林商工課 T 46-6306 F 46-6319

編集後記

7月号に引き続き、今回の特集はシリーズ2として、「乳幼児期の健やかな発達を願う」を取り上げました。乳幼児期に身についた生活習慣は、健康な心や身体づくりにはもちろんのこと、将来にわたる基盤づくりとしても重要です。日々、育児をしている中で、困ったこと、不安に思うことはありませんか？いなべ市にはそんな気になることを気軽に相談できる場(電話・面接・訪問・教室など)があります。一人で悩まず、まずは相談してください。「安心して子育てができる環境をみなさんに提供したい」とスタッフ一同、みなさんからの声をお待ちしています。

いなべいきいきマイタウン

▶川原白瀧棚田保存会 第3回石井進記念棚田学会賞受賞

この表彰は、平成16年8月11日棚田学会初代会長故石井進氏の遺徳を偲び、棚田の保全に資する優れた業績を表彰するために「石井進記念棚田学会賞」が設けられました。川原白瀧棚田保存会は、荒れ果てた農地を棚田に復元し、オーナー制度も取り入れた活動が高く評価され、8月5日東京三越劇場で表彰されました。



情報提供：農林商工部

発行/〒511-0293 いなべ市員弁町笠田新田111番地 T 0594-74-5820 F 0594-74-5821
編集/企画部 広報秘書課 <http://www.city.inabe.mie.jp/>
平成19年9月1日発行 Vol.46



生活情報「まいめる」
QRコード



モバイルサイト
QRコード



いなべ市ホームページ
(携帯電話用) QRコード

※古紙配合率100%再生紙を使用

R100